

日田高校定時制 学校だより ♪希望・理想・使命♪

後期生徒会 役員決定



◇6月29日、後期生徒会役員改選が行われ、後期の生徒会役員候補者による立会演説及び投票が実施されました。結果、新役員に

- 会長 矢野 悠(4年)
 - 副会長 尾形 龍(4年)
 - 書記 日限 詩織(3年)
 - 江田 菜由子(3年)
 - 梅原 和也(2年)
- の5名が決定しました。

◇後期生徒会の大きな行事としては、体育祭があります。全校一丸となつて行う一大行事です。日田高定時制をアピールする機会でもあります。日田高定時制を盛り上げ、次の学年へとバトンタッチしていく素晴らしい活動を行うべく、期待します。



奉仕活動 学校周辺の清掃

◇7月13日、奉仕活動デーとして学校の周辺の清掃を行いました。心配していた天気も開始時には雨がやみ、全学年で各場所にわかれてゴミ拾い、草取りをしました。

◇植え込みの中のビールのびや鉛の包装を取ったり、場所によっては空き缶があつたり、車に気をつけながらゴミを拾っていきましました。大きな道から脇道に入ったところに多くゴミがありました。

◇蒸し暑い中、生徒は汗びっしょりになつて作業していき、自分の持ち場を広げて熱心に作業していた生徒もいました。最後には取ったゴミや草でゴミ袋4つ分以上になりました。



第1回 進路講演会

◇7月1日、今年度最初の進路講演会が、大分県経営者協会専務理事の大塚伸宏さんと連合大分副事務局長の片桐直英さんを講師に招いて実施されました。

◇まず、「企業が求める人材とは」をテーマに大塚さんは地方経済の厳しさを指摘しながらも若者のプロの職場人としての頑張りが道を切り開いていくことを訴えました。



いのちの講演会

◇7月15日、「生笑(いきわら)一座」によるいのちの講演会が行われました。「生笑一座」とは、ホームレスを支援する北九州市のNPO法人「抱撲(ほうぼく)」の活動を通じて野宿生活から脱却した人を中心に結成されたグループです。

◇西原宣幸さんは離婚や死別で家族を失つたとして、目的も失いホームレス。11年の野宿生活の間、毎週アルミ缶を1000キロ近く集めて生活費を稼ぎ、一人の世話にはなりたくないという支援を拒んできました。だが、アルミ価格の下落で食べられない日が続いた2009年、訪ねてきたボランティアの支援をようやく受け入れて自立し、「生笑一座」の座員を続けています。

◇進行役を務めた奥田知志さんとメンバーとのやり取りが面白く、また、奥田さんの人を惹きつけるような話し方もあつて、1時間を越える講演でしたが、生徒たちは集中して聴いていました。

◇講演後に実施したアンケート用紙は、「生きていければいつかは笑える日が来る」「つらいときは助けて」と言つていい」という言葉で溢れていました。生きづらさを抱えた子どもに向けての「生笑一座」からのメッセージは、生徒たちに確実に伝わつたと実感しました。



全国大会壮行会 & 終業式

【耕不尽】



◇7月20日(水)1学期の終業式を迎えました。

終業式の前に、全国定通大会に出場する生徒9名の壮行会が行われ、各種目の選手から全国大会に向けての決意が述べられ、校長と生徒会長から激励の言葉をもらいました。全国での活躍と飛躍を期待したいと思います。

◇その後の終業式では、校長から「考える力」、「培う力」の大切さ、また4月の熊本地震からの「危機管理意識」の必要性、そして様々な変化に対する「生きる力」をつけることについて式辞が述べられました。明日から定時制の生徒は40日間の長い休みに入ります。仕事で忙しい生徒もいますが、この期間を利用して大きく成長してほしいと思います。

◇今学期、多くの活動があり、そこで多くの方との出会いがありました。そのときに聞いた話や出会いによって、自分自身をちよつとだけでもステップアップすることができました。そしてそれは各自の受け止め方によって大きく変わってきます。この数ヶ月間でどれだけの振り幅で成長したかはひとそれぞれ違うと思いますが、目の前のように真摯に取り組むことで確実に前に進んでいきます。

二学期は、その振り幅やステップを少しずつ広く、高くしていくためのきっかけを、さらに大事にして欲しいと思つています。夏季休業中にもかかわらず充電をして、二学期に元気な顔が見られることを楽しみにしています。

◇一学期を無事に終えられたのも、保護者のみなさまのご協力、ご支援の賜です。心より御礼申し上げます。

初心を忘れないこと、新しいことはチャレンジすること、成長した自分がそこにいることを信じて、一学期